

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (社会科教育専攻)

学習・教育目標	(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。
---------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号				
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.9, 1.0 の数値で表す				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S250009	高山 慶子	日本史概説A	日本史の古代から現代に至る歴史を、複数のテーマを切り口として概説し、現代社会の成り立ちや身近な生活慣習の歴史的な背景を考える。	中学校「社会」・高等学校「地理歴史」の免許を取得するための選択必修科目であり、日本史に関する基礎的な知識を身につける。	・大学入学以前に学んできた歴史をさまざまな視点で見直し、歴史について自ら考え理解を深めることで、知識の定着を図る。	0.3	0.2	0.3	0.0	0.2
S250018	高山 慶子	日本史概説B	日本史の古代から現代に至る歴史を、複数のテーマを切り口として概説し、現代社会の成り立ちや身近な生活慣習の歴史的な背景を考える。	中学校「社会」・高等学校「地理歴史」の免許を取得するための選択必修科目であり、日本史に関する基礎的な知識を身につける。	・大学入学以前に学んできた歴史をさまざまな視点で見直し、歴史について自ら考え理解を深めることで、知識の定着を図る。	0.3	0.2	0.3	0.0	0.2
S250505	下田 淳	外国史概説A	中国を中心とする東アジアの前近代における政治・経済・社会・文化などを概観し、日本も含めた東アジア諸国の交流と相互影響を認識すると同時に、異文化理解に際しての歴史の重要性を確認する。	中学校「社会」・高等学校「地理歴史」の免許を取得するための選択必修科目であり、外国史に関する基礎的な知識・理解を身につける。	・中国を中心とする東アジア史の基礎的な知識を身につけ、外国史と異文化を教え考える発想法に触れる。	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
S251005	下田 淳	外国史概説B	世界史、とくにヨーロッパ史の各時代における政治・経済・社会などの諸問題を概説し、それを通して外国史を学ぶことによつたような意義があるかを考える契機を提供する。	中学校「社会」、高等学校「地理歴史」の免許を取得するための選択必修科目であり、外国史に関する基礎的な知識、理解を見につける。	・ヨーロッパ史の古代～現代に至る大まかな流れを理解する。	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
S251507	松村啓子	地理学概説A	「位置」「地域」等の地理学の基礎概念を手がかりに、具体的な都市や国家の変遷と今日のありようについて学ぶ。	中学校「社会」および高等学校「地理歴史」の免許取得のための選択必修科目。国土や地域に関する系統地理的考察を行うための視点と方法を修得する。	・地域的観点から自然・人文地理的事象をとらえることができる。 ・地形図の読図の基礎を修得する。・生徒が理解可能な地理情報を提示するための基礎的な力を身につける。	0.6	0.0	0.2	0.1	0.1
S251501	奥井正俊	地理学概説B	系統地理学の輪郭を講義する。地理学の諸部門で用いる種々のモデルを紹介しながら、現実の世界・諸地域をモデルで見ることの意義を説く。	中学校社会、高校地歴の免許取得聴講科目(必修)。社会科教育専攻の専門分野の一である地理学、とくに系統地理学の入門編としての意義を有する。	・卒業論文作成につながる研究力を身に付ける。 ・地理学における理論・法則・モデルの役割を理解し、科学的思考力を身に付ける。	0.8	0.2	0.0	0.0	0.0
S252508	黒川 亨子	法学概説	本講義では、わが国の司法制度をその担い手や手続の観点から概観する。また、最高裁判例などの事例も可能な限り紹介し、考察を加える。	中学校「社会」および高等学校「公民」の免許を取得するための選択必修科目である。社会科教育専攻の1専門分野である「法学」に関する専門科目の入門編として位置づけられる。	・わが国の司法制度の枠組みを理解し、これからの司法制度のあり方を考えるための基礎的な知識を修得すること ・法学を学んでいくうえで必要な能力(六法全書の使い方や条文・判例の読み方等)を修得すること ・論理的に思考し、法を根拠として自分の意見を表明できるようになること	0.4	0.2	0.0	0.3	0.1
S253008	和田 泰一	政治学概説	ジェンダーや福祉国家、グローバリゼーションといった現代政治理論が取り組んでいる問題も取り上げながら、現実政治参加する市民として必要な基本的政治概念を解説する。	中学校「社会」および高等学校「公民」の免許を取得するための選択必修科目である。社会科教育専攻の1専門分野である「政治学」に関する専門科目の入門編として位置づけられる。	・自由、権力、市民、国家といった基本的政治概念を先入観を取り払って理解すること ・受講者が現実政治に参加するさいに確実な知識に基づいて理性的に討議、選択、判断できること	0.4	0.2	0.0	0.3	0.1

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (社会科教育専攻)

学習・教育目標	<p>(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。</p> <p>(B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。</p> <p>(C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。</p> <p>(D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。</p> <p>(E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。</p>
---------	---

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号				
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.9, 1.0 の数値で表す				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S254500	小原一馬	社会学概論	社会学の基本的な理論、もの考え方を、それを育んだ知的背景とともに説明していく。	中学校「社会」・高等学校の「公民」の選択必修科目であり、社会科教育専攻の1専門分野である「社会学」の入門編としての意義を持つ。	・スミス、スペンサー、デュルケム、ジンメル、ウェーバー、マルクスといった人々の社会思想をそれぞれイギリス、フランス、ドイツの知的伝統および歴史との関係で理解すること ・彼らの理論が、現代社会学にどのように影響しているか理解すること	0.4	0.0	0.0	0.2	0.2
S254004	塚本 純	経済学概論	ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎的な経済分析の手法を解説する。	社会科・公民科の経済的分野を理解するにあたり、基礎的な知識・素養を養成するための、教科の選択科目である	・実社会での活動に役立つ能力の基礎として、経済学的ものの見方・とらえ方の特徴を把握し身に付ける	0.5	0.0	0.2	0.1	0.2
S255000	山田 有希子	哲学概論	西洋哲学史を概観した上で、とりわけ近代哲学者たちの議論を紹介しながら、主に次の二つの問いに迫る。第一に、哲学において「考える」ということはどのようなことを明らかにすること、第二に、「自由と責任」という概念に軸に、「いかに生きるべきか」という、古くかつ新しい哲学的問いを探索することである。	中学校免許教科「社会」、および、高等学校教員免許教科「公民」を取得するための選択・必修科目である。また、社会科教育専攻の1専門分野である「哲学」に関する入門編としての意義を持つ。	・西洋哲学史に関する基礎知識、および、哲学的に「考える力」を身につける。 ・学校教育全般において求められる「考える力」とは何か、を考えることができるようになる。 ・中学校「社会」・高等学校「公民」との関連では、とりわけ本講義で言及する「応用倫理の諸問題」を通じて、自らの問題意識をもち、その問題への探求心を養う。	0.3	0.2	0.1	0.3	0.1
S255507	吉村 均	倫理学概論	人生にはすでに答えがある問いよりも答えが無い問いの方がはるかに多い。倫理学は「いかに生きるか」という後者の問いに取り組む学であり、西洋の知識や技術を取り入れるという発想で作られた学校教育制度のなかで、いかにあるべきかは、いまだ模索の途上にある。数々の先人の思想を手がかりに、問いを深める倫理思想史の方法を学んでいく。	中学校免許教科「社会」、および、高等学校教員免許教科「公民」を取得するための選択・必修科目である。また、社会科教育専攻の1専門分野である「倫理学」に関する入門編としての意義を持つ。	・倫理思想史に関する基礎知識を身につける。 ・あらかじめ正解が用意されているわけではない問いについて考える力を身につける。 ・学校教育全般において求められる「いかに生きるべきか」という問いに、倫理学の立場から考えることができる。	0.3	0.2	0.1	0.3	0.1
S252001	奥井正俊	地誌学概論A	地誌学の輪郭を講義する。地誌学の対象たる地球地域の見方、とらえ方、調べ方を平易に説き明かす。したがって、その内容は世界地誌や外国地誌、日本地誌、地方誌などではなくて地理学的見地に立つ地域論である。	中学校社会、高校地歴の免許取得聴講科目(選択必修)。社会科教育専攻の専門分野の一である地理学、とくに地誌学の入門編としての意義を有する。	・地球地域を見る確かな観察眼をもつようになる。 ・グローバルな意味での地域多様性概念を修得する。	0.8	0.2	0.0	0.0	0.0
S252007	松村啓子	地誌学概論B	地誌学の基本的な視点と地誌の構成を概観した上で、日本の地方誌および各国地誌を動態地誌的な方法により学ぶ。	中学校「社会」および高等学校「地理歴史」の免許取得のための選択必修科目。世界および日本の諸地域に関する地誌学習を指導するための基礎的な知識・技能を育成する。	・地誌の構成と静態地誌・動態地誌の学習法についての理解を深める。 ・地誌学習をつうじた地域的特色の追究方法を体験的に修得する。	0.4	0.2	0.0	0.2	0.2
S260101	高山 慶子	歴史学特講A	日本史の特定の時代・テーマについての講義を行い、歴史への理解と関心を深める。	中学校「社会」・高等学校「地理歴史」の免許を取得するための選択科目であり、学ぶ(教える)歴史を支える歴史・歴史学のあり方を理解する。	・日本史の特定のテーマを掘り下げて学ぶことで、歴史への興味や探求心を養い、歴史・歴史学に対する理解を深める。	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (社会科教育専攻)

学習・教育目標	<p>(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。</p>
---------	---

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号				
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.9, 1.0 の数値で表す				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S260218	下田 淳	歴史学特講B	外国史の資料を実際に読むことによって、外国史へのイメージを豊にしつつ、外国史への関心を深める。	中学校「社会」、高等学校「地理歴史」の免許を取得するための選択必修科目であり、外国史の資料への関心を身につける。	・外国史の資料を読む意欲をもち、基礎的な読解力を身につける。	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
S260209	高山 慶子	歴史学特講B	日本史の史料を実際に読み、そこから何が読み取れるのかを考えることで、歴史に対する理解を深める。	中学校「社会」・高等学校「地理歴史」の免許を取得するための選択科目であり、日本史の史料への関心と読解の基礎を養う。	・日本史の史料の基礎的な読解力を修得する。 ・日本史の史料を実際に読むことで、歴史社会のイメージを豊かにするとともに、歴史への関心を深める。	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0
S260322	下田 淳	歴史学特講C	西洋史学を代表する歴史家の著作を読み、内容を理解し、議論する。	中学校「社会」、高等学校「地理歴史」の免許を取得するための選択科目であり、歴史(世界史)を学ぶ(教える)とはどういうことか、について自分なりの考えを深める。	・西洋史学を代表する歴史家の著作を読んで内容を理解し、評論する力を見につける。	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
S260420	下田 淳	歴史学特講D	12世紀以降のヨーロッパ文明を多角的に解説し、非ヨーロッパ文明との比較を行う。	・中学校「社会」、高等学校「地理歴史」の免許を取得するための選択科目であり、ヨーロッパ文明への関心をもたせる。	・ヨーロッパ文明とは何かを理解する。	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
S272703	高山 慶子	歴史学実地調査	地域の歴史を具体的に調査するための基礎となる方法をフィールドワークを通して学ぶ。	中学校「社会」・高等学校「地理歴史」の免許を取得するための選択科目であり、歴史・郷土学習における教材研究の深い力量を身につける。	地域の歴史を具体的に調査するための基礎となる方法を修得する。	0.5	0.0	0.3	0.0	0.2
S260500	奥井正俊	地理学特講A	系統地理学の一部門である交通地理学の基礎的事項を講義する。授業の内容は大きく二分される。第1は地理学の分野における交通事象の把握・分析・考察の方法について、第2は近現代における交通事象の実態について、それぞれを平易に説き明かす。	高校地歴の免許取得聴講科目(選択)。社会科教育専攻の専門科目の一つであり、わたくしたちの生活に密接な交通事象に対する問題関心を喚起する。	・卒業論文作成につながる研究力を身に付ける。 ・地域のスケールを問わず、各地の交通事情や運輸行政に対して関心を払うようになる。 ・この分野における基礎教養を修得する。	0.8	0.2	0.0	0.0	0.0
S261108	奥井正俊	地理学特講B	数理計量地理学の基礎的事項を講義する。フィールドワークとデータ処理、それに基づく地理学理論の構築、という一連の研究過程に不可欠な方法論を平易に説き明かす。また、パソコンによる実習形式をとり入れる。	高校地歴の免許取得聴講科目(選択)。社会科教育専攻の専門科目の一つであるが、自然環境を含む地域全体の数量的把握への関心を喚起する。	・卒業論文作成につながる研究力を身に付ける。 ・統計分析の応用力を身に付ける。	0.8	0.1	0.1	0.0	0.0
S261604	松村啓子	地理学特講C	農業立地論とその有効性、および農業地域区分について講義する。また日本のコメ作り、肉用牛生産などの地域事例を紹介する。	高等学校「地理歴史」の免許取得のための選択科目。小・中学校の社会科および高等学校地歴科における食料の生産・流通・販売に関する授業を行うための基礎的な知識・技能を育成する。	・食料生産・流通・販売について、当事者の立場、国家政策、市場動向の各々にかんがみつつ理解できる。 ・農産物の産地の実態を調査し、地域学習の計画を立てる力を身につける。 ・消費者として、食料生産の現場と食材そのものに対する正しい知識と判断力を養う。	0.5	0.0	0.3	0.0	0.2

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (社会科教育専攻)

学習・教育目標	(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。
---------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号				
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
新規	松村啓子	地域調査法	地理学習における地域調査のさまざまな手法、調査計画の立て方、調査結果の考察、データの加工、主題図作成の基礎を学ぶ。	小学校・中学校・高等学校における学校区または市町村規模の地域の野外調査に必要な地理的技能と、指導計画を立案する力を育成する。	・小・中学校における身近な地域の観察、高等学校における市町村規模の調査の計画を立てることができる。 ・地形図の読図および主題図作成の基礎を修得する。 ・景観、土地利用、統計などから、地域の総合的特色をとらえることができる。	0.5	0.0	0.2	0.3	0.0
S274005	奥井正俊	地理学実地調査	身近な地域を対象とする野外調査の授業。調査計画の立案、調査結果のとりまとめを含む。	社会科教育専攻の専門科目の一(選択)。フィールドワークを経験するなかから、社会の実情をはだで感じる機会としての意義をもつ。中学校教員養成課程社会科地理学専攻の必修科目であった。	・地理学の立場に立つ野外調査のハウトゥーを身に付けるとともに社会の一員としての自覚をもつようになる。	0.5	0.2	0.1	0.1	0.1
S252601	黒川 享子	法学特講A	刑法の講義を行う。刑法とは、犯罪と刑罰について定める法律である。前半の講義で刑法総論(全ての犯罪類型に共通する成立要件)を、後半の講義で刑法各論(個々の犯罪類型に固有の成立要件)を取り上げる。	高等学校「公民」の免許を取得するための選択科目である。社会科教育専攻の1専門分野である「法学」に関する専門科目の発展編として位置づけられる。	・刑法の基本的な概念や理論を理解すること ・実務の現状や問題点を批判的に考察できる力を修得すること ・法学の議論には、具体的争点に対して複数のアプローチや解決の方向があることを理解し、それぞれの立場から最も説得的な議論を組み立てられる力を養うこと	0.4	0.2	0.0	0.3	0.1
S252650	黒川 享子	法学特講B	刑事訴訟法の講義を行う。刑事訴訟法とは、国家刑罰権の実現を図るための手続を定める法律である。実際の刑事手続の流れに沿って授業をすすめる。	高等学校「公民」の免許を取得するための選択科目である。社会科教育専攻の1専門分野である「法学」に関する専門科目の発展編として位置づけられる。	・刑事訴訟法の基本的な概念や理論を理解すること ・実務の現状や問題点を批判的に考察できる力を修得すること ・法学の議論には、具体的争点に対して複数のアプローチや解決の方向があることを理解し、それぞれの立場から最も説得的な議論を組み立てられる力を養うこと	0.4	0.2	0.0	0.3	0.1
S801005	森 達也	公共政策論	効率性の実現とその技術に関する議論や、政策自体の望ましさ、民主的な合意、さらには「公共」とはそもそも何なのか、といった問いなどを扱い、主として政治学・経済学・倫理学などから構成される複合的な学問領域である公共政策論について解説する。	高等学校「公民」の免許を取得するための選択科目である。公共の概念をとらえることにより、公民的資質のあり方を解説する科目として位置づけられる。	・「公共」の機能とその現状を普遍的な枠組みから認識すること ・政策に関する諸々の視点や理念を総合するための基本的な考え方を身につけ、社会政策に関する視野を広げること	0.5	0.3	0.0	0.1	0.1
S263003	塚本 純	経済学特講A	経済学の基本的な知識を身に付けることを到達目標とする。	社会科・公民科の経済的分野を理解するにあたり、基礎的な知識・素養を養成するための、教科の選択科目である	現実の経済事象を理解する能力や経済に関する理論的分析力の基礎を理解すること。	0.6	0.0	0.2	0.1	0.1

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (社会科教育専攻)

学習・教育目標	(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。
---------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号				
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S263500	塚本 純	経済学特講B	政府部門を含んだ経済分析としての公共経済学の初歩を解説することが主な目的であり、あわせて、価格理論を中心とするミクロ経済学の基礎についても解説する。	社会科・公民科の経済的分野を理解するにあたり、基礎的な知識・素養を養成するための、教科の選択科目である	・現実の経済事象を理解する能力や経済に関する理論的分析力の基礎に基づき、政府が関与する活動の意義や具体的な活動内容について理解すること。	0.6	0.0	0.2	0.1	0.1
S814506	塚本純	経済政策論	財政政策・金融政策などの経済政策が、景気や雇用・物価などの経済に与える影響を、マクロ経済学の理論的裏付けを理解した上で学ぶ。	社会科・公民科の経済的分野を理解するにあたり、基礎的な知識・素養を養成するための、教科の選択科目である	・現実の経済政策、とくに財政政策および金融政策の運営についての理解力と判断力を身につけること。	0.6	0.0	0.2	0.1	0.1
S265006	小原一馬	社会学特講B→社会学特講	個人と社会の関係を教育現象に着目することで考える。	共通教職の選択科目の一つであり、教師になる上で、教育を社会と個人の関係から見ていく能力を育む。	教育を、個人の視点からだけではなく、社会というレベルで見られるようになる、つまり社会学的な見方で見られるようになること。	0.4	0.4	0.0	0.1	0.1
S265707	小原一馬	社会調査法	「どうしてプロ野球の人気は衰えてきたのか」「どうして沖縄に住む人の所得は低いのか」「どうして子供達の虫歯は減っているのか」「どうして教育学部の女子学生は国際学部より地味なのか」「どうして読書離れは進んだのか」こういう問いが浮かんだときに、それにどう実証的に答えたら良いのかを、実践的に学ぶ。	中学校「社会」・高等学校の「公民」の選択科目であり、社会科教育専攻のみならず、調査による実証に関心を持つものにとつての入門的内容である。	何らかの社会現象に関して、その原因を実証するためにどのようなデータを集めたらよいか知り、実際に集められる。 ・そのデータをどのように分析したら良いのか知り、実際に分析できる。 ・その分析結果をどのように示したらよいか知り、実際に示すことができる。	0.4	0.4	0.0	0.1	0.1
S278302	小原一馬	社会調査実習	量的あるいは質的調査法を学び、調査を企画・実施・分析する。今年は「大学生における自分らしさの生成の認識」というテーマでの調査を予定している。	中学校「社会」・高等学校の「公民」の選択科目であり、社会調査法の発展的内容である。	量的あるいは質的調査法の基本を学び、調査を企画・実施・分析できるようになる。	0.4	0.4	0.0	0.1	0.1
S257500	山田 有希子	哲学特講A	哲学の一分野である「論理学」を基礎に、「論理的に考える力」を身につける。まずは、「考えることを考える」ことから出発し、「哲学的に考える」「科学的に考える」「論理的に考える」という三つの「考える力」を明らかにする。その上で、演習方式も一部取り入れ、実際に「論理的に考える」トレーニングを重ねる。	中学校免許教科「社会」、および、高等学校教員免許教科「公民」を取得するための選択・必修科目である。社会科教育専攻の一分野である「哲学」に関して、その入門編「哲学概論」に続き、より専門的にこの分野への興味関心を喚起し、また、学校教育全般において求められる「考える力」についての理解と実践力を深める。	「論理的に考える」トレーニングを通じ、社会・公民・教育における「諸問題」に関わる・他者の論証を正確に理解することができる、 ・自らの見解を論証することができる、 ・他者との対話を構築することができる。	0.3	0.2	0.1	0.3	0.1

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (社会科教育専攻)

学習・教育目標	<p>(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。</p> <p>(B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。</p> <p>(C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。</p> <p>(D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。</p> <p>(E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。</p>
---------	---

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号				
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.9, 1.0 の数値で表す				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S258000	山田 有希子	哲学特講B	哲学特講Aに引き続き、哲学の一分野である「論理学」を基礎に、「論理的に考える力」を身につける。まずは、「考えることを考える」ことから出発し、「哲学的に考える」「科学的に考える」「論理的に考える」という三つの「考える力」を明らかにする。その上で、演習方式も取り入れ、実際に「論理的に考える」トレーニングを重ねる。	中学校免許教科「社会」、および、高等学校教員免許教科「公民」を取得するための選択・必修科目である。社会科教育専攻の一分野である「哲学」に関して、「哲学特講A」に続き、より専門的にこの分野への興味関心を喚起し、また、学校教育全般において求められる「考える力」についての理解と実践力を深める。	「論理的に考える」トレーニングを通じ、社会・公民・教育における「諸問題」に関わる・他者の論証を正確に理解することができる、 ・自らの見解を論証することができる、 ・他者との対話を構築することができる。さらに、 ・自らの問題意識の元に、一定の問題について、「立論」「批判」「異論」を展開することができる。	0.3	0.2	0.1	0.3	0.1
S256112	松本敏・熊田禎介	中等社会科教育法Ⅰ	中学校社会科の教員免許取得希望者を対象に、中学校社会科教育の概要と、その基礎的な教育方法の習得を目指して行われる科目である。	・中学校教科教育法の科目である。 ・中学校社会科の免許取得者には必須の科目である。	・中学校社会科教育の概要と、その基礎的な教育方法を習得する。	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
S256120	溜池善裕、熊田禎介	中等社会科教育法Ⅱ	中等社会科の実際の授業について検討し、「社会科授業とは何か」について考える。	教員免許法に定められる中学校社会一種の必修科目である。	中等学校における「社会科授業とは何か」について具体的に考え、それを実施することが出来る。	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
S213553	溜池善裕	中等社会科教育法Ⅲ (地理歴史分野)	中等社会科および高等学校地理歴史科の授業の役割と意義について考える。	教員免許法に定められる中学校社会一種、高等学校地理歴史一種の必修科目である。	中等学校における社会や地理歴史が、教科として果たす役割について具体的に考えることが出来る。	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
S257003	松本敏	中等社会科教育法Ⅳ (公民分野)	中学校社会一種及び高等学校公民一種の教員免許状を取得希望の学生に対し、中等社会科における公民的な分野・科目の教育内容・教育方法についての基本的な理解を得させる科目である。	・中学校社会一種、高等学校公民一種の取得のためには必須の科目である。 ・中学校社会取得者は中等社会科教育法Ⅰ及びⅡを履修しておくことが望ましい。	・中等社会科における公民的な分野・科目の教育内容・教育方法についての基本的な理解を得る。	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
S267505	松本敏、溜池善裕、熊田禎介	社会科教育特講C →社会科教育特講	社会科教育に関する理論や実践について、その本質や歴史、現状と課題等、具体的なテーマ・内容を取り上げて講義する。	社会科教育専攻の選択専門科目の1つである。社会科教育専攻の1専門分野である社会科教育についての基礎的知識・理解を得るとともに、社会科教育分野への幅広い興味・関心をもつ。	・社会科教育についての基礎的知識・理解を得る。 ・取り上げたテーマ・内容を中心にして、社会科教育への幅広い興味・関心をもつ。	0.7	0.2	0.1	0.0	0.0
新規	各教員	社会科教育セミナーⅠ	社会科教育の諸分野(日本史・外国史・地理学・法学・政治学・社会学・経済学・哲学・倫理学・社会科教育等)のうち、受講生が3年次に選択した分野について、各教員のもとで本セミナーは開講される。各分野では、「卒業論文」作成に向け、受講生自らの問題意識のもとでテーマ設定を行い、調査・研究し、発表する力を養う。	「社会科教育専攻専門科目」の必修科目である。社会科教育専攻の諸分野(日本史・外国史・地理学・法学・政治学・社会学・経済学・哲学・倫理学・社会科教育)のうち、受講生が選択した分野に関する専門的知識および方法論を伝授し、当該専門分野への受講生の理解を深めることによって、同時に、社会科教育への興味・関心を喚起する。	・社会科教育専攻の諸分野のうち、選択した分野の専門的知識と方法論を習得する。 ・習得した専門的知識と方法論を基礎に、社会科教育へのさらなる興味・関心を高める。 ・習得した専門的知識と方法論を基礎に、卒業論文作成に向けて、自らの「問題設定」に関する論(文)を構築する力を身につける。	0.3	0.1	0.1	0.3	0.2

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (社会科教育専攻)

学習・教育目標	(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。
---------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号				
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
新規	各教員	社会科教育セミナーⅡ	社会科教育セミナーⅡに続く科目である。社会科教育の諸分野（日本史・外国史・地理学・法学・政治学・社会学・経済学・哲学・倫理学・社会科教育等）のうち、受講生が3年次に選択した分野について、各教員のもとで本セミナーは開講される。各分野では、「卒業論文」作成に向け、受講生自らの問題意識のもとでテーマ設定を行い、調査・研究し、それを発表する力を養う。	「社会科教育専攻専門科目」の必修科目である。社会科教育専攻の諸分野（日本史・外国史・地理学・法学・政治学・社会学・経済学・哲学・倫理学・社会科教育等）のうち、受講生が選択した分野に関する専門的知識および方法論を伝授し、当該専門分野への受講生の理解を深めることによって、同時に、社会科教育への興味・関心を喚起する。	<ul style="list-style-type: none"> 社会科教育専攻の諸分野のうち、選択した分野の専門的知識と方法論を習得する。 習得した専門的知識と方法論を基礎に、社会科教育へのさらなる興味・関心を高める。 習得した専門的知識と方法論を基礎に、卒業論文作成に向けて、自らの「問題設定」に関する論（文）を構築する力を身につける。 	0.3	0.1	0.1	0.3	0.2
新規	各教員	卒業論文	社会科教育の諸分野（日本史・外国史・地理学・法学・政治学・社会学・経済学・哲学・倫理学・社会科教育等）のうち、受講生が3年次に選択した分野について、自らの問題意識のもとでテーマ設定を行い、調査・研究し、論文執筆および口頭発表を行う。	社会科教育専攻の必修科目である。社会科の専攻専門科目を集大成する機会として位置づけられる。	<ul style="list-style-type: none"> 研究分野ごとに、専門的知識と応用力を身につける。 自らの問題意識をもとに課題設定を行い、立論のための文献、史料、データ等を収集・分析することができる。 科学的思考にもとづき、説得的な議論を組み立てることができる。 研究成果をわかりやすく発表することができる。 研究成果をまとめ、卒業論文を作成すること。 卒業論文の内容をわかりやすく発表できること。 	0.3	0.1	0.1	0.4	0.1